特集

令和7年度「福岡城天守台調査の経過報告について」最新版

福岡城・鴻臚館市民の会「福岡城だより」編集部

福岡城に天守閣はあったのか？なかったのか？福岡市が、令和7年度に実施した福岡城天守台調査についての、同経済観光文化局 史跡整備活用課の報告をまとめてお伝えします。

調査は、測量調査（本丸から天守台にかけて最初に実施し、基礎図を作成）、石垣調査（天守台内側の現状と内部構造を明らかにするためのレーダー探査）、地盤調査（礎石下の固さ・地質などの状況確認のため、天守台内側のボーリング調査や圧密度調査）とともに、最も興味関心が高い発掘調査が、令和7年6月30日から天守台内側（穴蔵部分）の礎石周辺において行われました。

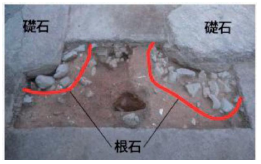
以下は、その経過報告です。

【第1回調査報告】令和7年12月17日

①礎石が江戸時代の姿を保っていることが判明した。

天守台の地表に見えていた礎石の下から、江戸時代の工法で築かれた根石が見つかった。このことにより、礎石は江戸時代の姿のまま残されていたことが明らかになり、建物を建てることを前提として、礎石と根石でしっかりと基礎固めをしている構造が分かった。

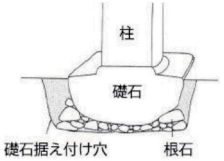
《礎石と根石》



調査により確認された礎石と根石

礎石とは、建物の柱を支えるために地面に据えられた基礎の石のこと。建物の荷重によって柱が地面にめり込まないようにしたり、柱が土に直接触れることを防いで腐食を防止するなどの役割がある。

根石は、礎石の下に詰められた小型の石のこと。礎石を安定させ、沈下を防止する役割がある。



イメージ

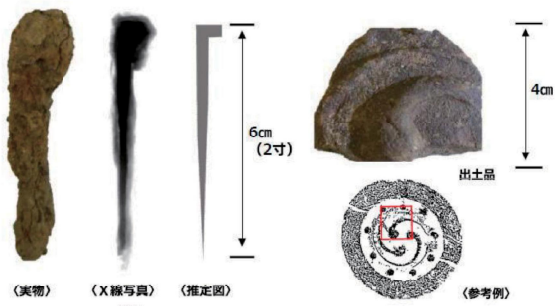
②江戸時代の建物に使用される部材（瓦・釘）が出土した。

a. 瓦

屋根の軒先に葺く瓦の一部が出土した。この瓦には福岡城の瓦によく見られる「巴文」の模様がある。

b. 釘（和釘）

釘とみられる鉄製品が2点出土した。そのうち、1点をX線で撮影したところ、長さ6cm（2寸）の和釘であることが判明した。



釘（和釘）

瓦（軒丸瓦）
巴形の渦巻き模した
巴文と呼ばれる文様

【第2回調査報告】令和8年2月18日

①束石（つかいし）とみられる建物基礎を確認した

礎石と礎石の間から、床下を支える柱の基礎である束石と考えられる小さな平石1点（長さ約30㎝、幅約20㎝）が見つかった。これは、天守台内側（穴蔵部分）で、床組（ゆかぐみ）などの建築工事が行われていた可能性を示すものである。

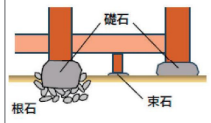
《和釘》

和釘は江戸時代以前に使われていた釘。鍛冶職人が1本ずつ手打ちで製作し、断面の形は四角形で、釘の頭は叩いて曲げたり巻いたりして作ったもの。和釘は現代でも文化財の修復工事や寺院の建築等で使用されている。

《束石》

床などを受ける横木など、建物の構造材を支持する短い柱の基礎。

柱と柱の間で、必要に応じて荷重補助するもの。



イメージ

②桐文（きりもん）の瓦が出土した

今回の調査では、前回報告した巴文瓦に加え、桐文を持つ瓦も出土した。本市では他に名島城（東区）で見つかっており、福岡城の桐文瓦は、名島城解体後に持ち込まれ、建物の創建時に再利用されたものと考えられる。

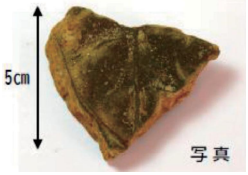
《桐文瓦》

豊臣秀吉が家紋として使用した桐文がデザインされた瓦のこと。

大和郡山城（奈良県・豊臣秀長）や名護屋城（佐賀県）など、豊臣政権とのつながりがある城で使用されている。

【参考例】

名護屋城出土



＊今回見つかった瓦は、桐文中央の葉の下半部分

【天守台調査の今後の予定】

○今回の調査で出土した遺物等については、分析・検討・整理を進めていく。

○令和7年度天守台内側（穴蔵部分）調査で得られた結果を文化庁や有識者に共有し、助言や知見をいただくと共に、さらなる学術的知見を得るため、令和8年度はより広範囲の調査を実施する。

○天守台外側（裾部（すそ））は令和8年5月頃から発掘調査を開始し、関連する遺物を採取するとともに、天守台石垣の構造を明らかにする。

〈編集部のまとめ〉

今回の調査報告によれば、天守台の礎石の下から根石が見つかり、建物を建てることを前提に基礎固めをしていたことが分かりました。この他、床下を支える柱の基礎である束石も見つかり、これは天守台で建築工事が行われていたことを示しています。

そして特に注目すべき点は、発掘調査で出土した「巴文様瓦」、「桐文様瓦」と、2本の和釘です。「巴文」の瓦は安土桃山時代から江戸初期に広く使われており、「桐文」の瓦は名島城解体後に持ち込まれて建物の創建時に再利用された可能性が高く、どちらも多くの文献が福岡城天守の存在を指摘している時代と一致します。従って、この時期に瓦が使われた建物が、天守台に存在していた証拠の一つとなりえます。

また、和釘は複雑な木造構造の天守の内装や外装の仕上げに不可欠であった部材であり、これも天守台に完成された建築物が存在していた可能性を示す証拠と考えられます。

以上、今回の調査報告で、考古学的観点からも福岡城天守台に建築物があった可能性が一層高まりました。さらなる実態解明については、今後より広範囲に実施される福岡城天守台内外の調査結果が待たれるところです。